



医療法人社団 芙蓉会
ふよう病院
千葉芙蓉病院
きゃらの樹ケアセンター

芙蓉会

理事長挨拶

医療法人社団 芙蓉会 理事長 四ヶ所 大

5月から6月にかけて、関係団体の総会等に参加してきました。3月決算の法人、団体が多いのが理由で毎年この時期に集中しております。いずれにおいても、医療・介護関連の関係者との意見交換も活発にできる、年間で最も刺激を受ける時期でもあります。今年のキーワードは、「人材不足」、「H30.4の介護保険・診療報酬ダブル改定」、「自立支援」でありました。それぞれ、関心の高いキーワードではありますが、まずは「自立支援」について考えたいと思います。

そもそも自立支援は介護保険の基本理念でありましたが、介護保険が施行されてから10数年経過した現在、本来の考え方とはかけ離れてきた感がありました。そのような中、4月14日に開催された第7回未来投資会議において、安倍総理が自立支援について言及した事により、改めてクローズアップされたとも言えます。介護保険を簡易的に申し上げると、介護度が重くなると、事業者側の報酬が増える仕組みです。極論で言えば、ご利用者への介護サービスを一生懸命提供し、状態が改善すればするほど、事業者側への報酬が減ってしまうという、アンバランスな仕組みとも言える訳です。今回の提言は、自立支援に積極的に取り組んでいる事業者を評価するという内容であり、業界全体にとっても、



介護保険の基本理念を再考する、良いきっかけではないかと個人的には感じております。

また、「人材不足」については、介護者の負担を軽減するロボットやセンサーの導入を後押しするとの言及もあり、実現化に向けての期待が膨らむところです。実際に今回参加されていた事業者の中には、スマートフォンを有効活用することでご利用者の状況把握や記録の作成等の業務効率を上げ、人材不足を補っているケース。内部研修の活性化を図り、離職率の改善に向けて、取り組んでいるケースもありました。当法人においても、今年から新入オリエンテーションを毎月開催し、職種間、部署間のコミュニケーション強化を実施しております。業界全体の底上げの一翼を担うべく、今後も活動的に取り組んでいきたいと思っております。

「老人は国の宝」

医療法人社団 芙蓉会 (事業所一覧)



- ・ふよう病院
- ・芙蓉ミオ・ファミリア町田
- ・グループホームあおぞら
- ・デイサービスふれあいルーム
- ・千葉芙蓉病院
- ・きゃらの樹ケアセンター
- ・千葉芙蓉ハーモニー
- ・千葉芙蓉ステーション

芙蓉会健康セミナー開催

ふよう病院では毎年春と秋の2回、地域貢献活動を行なっています。今年の春は、「身近なテーマを分かりやすく知っ得！」をテーマとした「健康セミナー」を2部構成で開催しました。日程が近隣の小学校の運動会と重なって集客が心配されたものの、当日は天候にも恵まれ、お陰様で会場は100名近くの聴講者で満席となりました。



第1部は、ふよう病院の医師・医学博士である門廣先生より

「知って長生き！ 高齢者の肺炎～高齢者と肺炎の関係～」

肺炎は日本人の死因第3位であること、肺炎による死亡者のうち97.3%が65歳以上の方だという説明に、ご参加の皆様も真剣な眼差し。嚥下力の低下を防止する体操の実演や、誤嚥性肺炎と口腔ケアの関係、2つの肺炎球菌ワクチンの違いや日々の心がけの説明に、ひとつひとつ頷きながら、皆様、一生懸命ペンを走らせていらっしゃいました。

第2部は、ふよう病院の薬局長 一ノ瀬薬剤師より

「知って役立つ！ 高齢者と薬の話」

必要以上に多くの薬を併用している状態「ポリファーマシー」を、実例を出して説明。また、吸収・分布・代謝・排泄の図をもとに、なぜ高齢者は同じ薬を使っても副作用が出やすくなるのか等、薬のしくみを分かりやすく解説。さらに、ジェネリック薬品や新しく導入されたセルフメディケーションについても触れ、「分からないことは自己判断せず、お気軽に薬剤師までご相談を」と呼びかけました。

セミナー終了後は希望者に施設見学会を行い、約40名の方に、ふよう病院や有料老人ホーム、グループホーム等をご覧いただきました。皆様のご感想は、

「初めて来ましたが、こんなに多くの施設があるとは知りませんでした」

「近くに高齢者施設があることを知り、老後に少し安心が持てました」

「健康セミナーの話が分かりやすくて良かった」

「今回で3回目の参加です」

などなど。また、健康セミナーが終了し2～3週間経過した後も、「この前の話は良かった」と参加して下さった方が多数の職員に伝えて下さり、嬉しくなりました。

今後も皆様に関心の高いテーマを取り上げて、健康セミナーの続編ができるようにしたいと思います。秋のふよう病院地域貢献活動にも、どうぞご期待ください。

この地に思う事

きゃらの樹ケアセンター 事務次長 地曳 昭人

松丘に勤めるようになって30年が過ぎました。当時は道路も十分整備されておらず、車が1台しか通れない区間もあって、ところどころにすれ違うための待避所が設けられていました。マイカー通勤の初心者にとっては毎日手に汗にぎる通勤でした。

ところが最近の良い道路ができて、首都圏中央自動車連絡道（圏央道）の木更津東インターを降りると久留里までバイパスで来ることができるようになりました。ゆくゆくは芙蓉会の膝元まで伸びる計画のようです。私の通勤時間も数分短縮されると思いますが、なにより神奈川、東京方面からのアクセスが良くなることに一番期待しております。

よりよい環境に定住を求めて都会からくる方達も増えるのではないかと思います。千葉芙蓉会のある上総地区は、残念ながら若者の流出で子供の数が減少しております。亀山の市立保育園は松丘の保育園と統合して、「かずさあけぼの保育園」としてリニューアルされ、平成28年4月に芙蓉会の隣に移設されました。きゃらの樹ケアセンターは、毎年この保育園との交流会

を開催しており、中学校生徒会のボランティア訪問（年2回）と共に高齢者と接する機会を積極的に設けております。

田舎では3世代や4世代同居が当たり前と思われがちですが、宅地地所が広いため、敷地内に別棟を建てて、高齢者と一緒には暮らさない家が多いので、お年寄りと接したことがない子供たちが実はたくさんいます。田舎でも核家族化の波は確実に押し寄せているわけです。

多くの子供たちがこの地で育ち、その子たち全員が芙蓉会でお年寄りと自然に接し、学んで、いつかは専門職としてこの地に帰り、高齢者を支える人材となってもらふこと、そして、この地に看護・介護のスペシャリストが多数存在することが私の理想であり、少しでもその役に立てればと考えています。



院内職員研修会報告「感染対策①」

29年5月開催 発表者 (株)明治

<テーマ>

食中毒について

<内容>

1. 食中毒について

- ①食中毒の分類～原因物質別～
- ②月別食中毒発生件数
- ③細菌性食中毒の発生機序
- ④食中毒の予防三大原則
- ⑤食中毒予防のポイント

2. 手洗いのロールプレイング→模範的な手洗いの実演

<まとめ>

食中毒予防の3大原則 1. 菌をつけない 2. 菌を増やさない 3. 菌をやっつけるの徹底の為に、正確な手洗いが不可欠である。



院内職員研修会報告「医療安全」

29年6月開催 DVD 視聴

<内容>

DVD「患者・家族とのトラブル回避コミュニケーション鑑賞」

<まとめ>

多種多様な専門分野に分かれている病院という組織で円滑に仕事をする為にはコミュニケーションが不可欠であるとよく分かる内容だった。具体例もいくつかあったのですぐに仕事に生かすよう努力したい



29年6院内職員研修会報告「安全管理・危機管理」

＜テーマ＞

危機管理および高齢者虐待防止

＜内容＞

6月13日、川原経営総合センターから新井結花先生をお招きし、お話しいただきました。医療機関・福祉施設に求められる安全管理体制、危機管理に対する職員の意識向上について、具体的に説明を受けました。その中から一部抜粋します。

安全管理・危機管理に対し考え行動するのは、経営層だけではなく、職員一人ひとりです。日々のケアが「作業」にならないよう、慣れからくる思い込みを排除し、日々変化する患者・利用者の状況を把握しておくことが重要です。

高齢者虐待防止法にあるように、施設は虐待を防止するための措置・対策を講じる責務があります。「不適切な言動」を見て見ぬふりせず、よくない事は良くないという、管理者やリーダーに相談する、組織的な対応が必要です。チー

ムアプローチをはかり、職員同士お互いを認め合う事が大切です。

＜感想＞

講義をお聞きし、職員それぞれが自分の事と認識し、日々研鑽を重ねていきたいと感じました。「老人は国の宝」のスローガンのもとで。



千葉芙蓉病院 イベント報告

傾聴タイム

5月から、患者様のお話に耳を傾ける試み「傾聴タイム」を始めました。

毎日のケアの中で、つど患者様とコミュニケーションをとるよう心掛けておりますが、今回改めて、より積極的に行おうというわけです。

火曜日・木曜日の午前・午後、病室を訪問します。看護・介護職員はもちろん、事務や栄養科・リハビリ・検査科など多職種が、かわるがわる伺っています。初めはぎこちなかった点もあり

ましたが、徐々に慣れてきました。たくさんお話して下さる患者様もいれば、言葉がスムーズでなくとも笑顔でうなずいてくださる方もいらっしゃいます。また、反応が得られなくても、聞こえていると信じて手をさすって話しかけています。

10～20分のわずかな時間ですが、仕事の手を止め、患者様とのつながりを強めたいと努力しています。

運動会

5月24日(水)に行いました。26名の患者様が、紅組・白組に分かれ、「紙ヒコーキ投げ」「すごろく」「ボール送り」の3種の競技に参加しました。今年からの新競技「すごろく」は、職員が駒になり患者様がサイコロを振る、というのですが、それだけでは盛り上がり欠けるということで、駒の顔にペイントをプラスしました。駒が進むごとに患者様にクジをひいていただき、ひかれたほうの駒がペイントされるという特別

ルールです。前半は、患者様に塗っていただきましたが、皆様とてもお優しく、駒役の職員の顔はほぼ原形を保っており、後半は職員が塗る側にまわりました。おかげで、顔中赤と黒になり、会場中が大きな笑いに包まれました。

運動会終了後は、6名の患者様が屋外での昼食を楽しまれました。お天気にも恵まれ、テントの下でのおにぎり弁当に「おいしかった!」「たまにはいいね」との声がきかれ、好評でした。



きゃらの樹ケアセンター イベント報告

運動会開催

4階リハビリフロアにて総勢80名ほど参加し、年1回の大運動会が行われました。数日前から始まった練習を皆さん一杯がんばりましたが、



本番はやや緊張気味な様子。全員がハチマキをして紅白に分かれ、競技開始。応援合戦も含め5種目で戦いました。



通所リハビリご利用者様対象「鉄板焼きそば」

曜日毎に目でゆしみ・食べて愉んでいただきたく『鉄板焼きそば』の実演を企画してみました。

調理前、作業テーブルに準備されている野菜・麺など食材の量や、各調味料のボトルの大きさに目を丸くしている方もいらっしゃいました。

実演開始となりホットプレート2台をフル活用。1台は麺を蒸し、もう1台は野菜や肉など炒め、頃合いをみて鉄板の中身を半分ずつに入れ替えをし、調味料を加え仕上げの行程へ。食欲をそそるとてもいい香りがフロア全体に立ち込め鉄板焼きそばの完成です。あたたかい焼きそばを提供することができました。『次の催し物も楽しみねえ〜』と各曜日の利用者様よりお言葉をいただきました。



医療法人社団芙蓉会 **きゃらの樹ケアセンター**



見学随時受付中

〒292-0503 千葉県君津市広岡 375-3
TEL 0439-50-7333 FAX 0439-50-7399